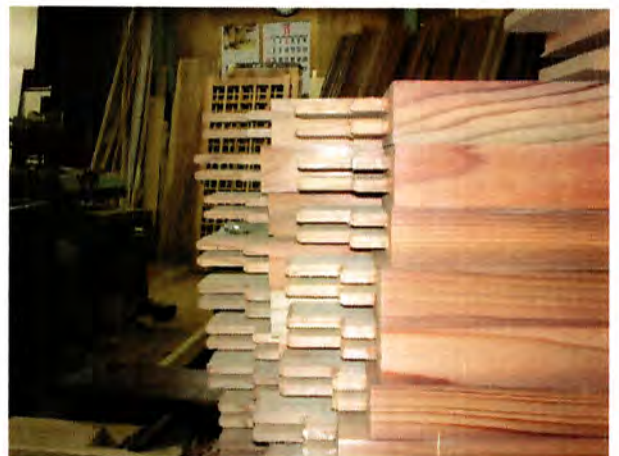


事務所に咲いた芙蓉の花



これぞ職人技、建具のホゾは見事

長かった梅雨のあと、まだ残暑が続いています。皆様お元気にお過ごしでしょうか。この夏、九州や山陰、長野などを襲った集中豪雨の被害には目を覆うばかりでした。

この春から初夏にかけて、新築後10年・20年あるいは30年とそれぞれ年月を重ねた住宅を拝見させていただく機会がありました。そうするとたくさんのがわかってきます。住まいはどのように経年変化していくのか。水廻りのどこの部材が傷みやすいのか。そして、住まいを長持ちさせるためにはどのように施工するのがよいのか、耐久性を待たせるための適切な材の選択の重要性、などなど勉強させていただきました。

また、自然素材を使った住まいにリフォームする工事をご注文いただくことが多くなりました。建物の軸組みはそのまま生かして、快適な広い空間とするために構造を補強します。屋根と外壁については塗装や仕上げ直しで対応します。そして、内装は無垢の檜や杉を使い、壁には漆喰を塗るといふ、内装を天然素材に替えて、居住空間を快適なものにするという工事になります。床・壁・天井をほぼ解体してから新しい内装をつくっていきますからリフォームでも大規模なものと言えます。

住まいを建て替えるのは勇気がいるものです。リフォームで快適な住まいに変身した実例をまたの機会にご紹介させていただきたいと思ひます。

やっと、残暑もおさまって、色づく秋になります。

木工事進行中

この住まいは室内を杉材と・漆喰でつくった重厚で力強い家となっています。特筆すべきは、洗面カウンターはもちろんキッチンの天板まで無垢杉材でできている点です。徹底的に木にこだわってつくっても、野暮ったくならないのは高野祐之先生のデザイン力によるものです。

キッチンのほか、ダイニングテーブルや机などが同じ杉材で作られています。全て大工が製作しました。このあと壁には真っ白な漆喰が塗られます。

完成の報告をさせていただきのが楽しみです。(大多喜の家)



やさしい素材にリフォーム



内装を杉板と漆喰にリフォームする

上の写真は比較的簡単に杉板と漆喰の内装にかえた例です。この部屋は和室でした。天井は杉板に張り替えて、壁は石膏ボードで柱を隠しました。その上に薄く塗れる漆喰を施したものです。それでも、漆喰の風合いは本物です。

ほかの方法として、手漉きの厚手和紙を耳を重ねてはって行くのも趣があってお勧めです。目にやさしくて、肌にやさしい素材で生活空間をつくれれば、きっと心がやすらぐことでしょう。

もし可能であれば、間仕切りやドアを開放して広い部屋をとることができればさらに快適な住まいになると思います。ひとつの部屋だけでも素材を生かした快適な部屋になるようリフォームできます。



発行者 ご連絡先
秋葉建設(株) 秋葉 忠夫
〒289-2163 匝瑳市南神崎52-1
電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824
Eメール master@woody-akiba.com
HP URL <http://woody-akiba.com/>